

白馬村図書館施設検討委員会（第1回）会議録

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 平成 29 年 7 月 25 日（火） PM3:30～4:30 |
| 開催場所 | 白馬村役場 庁議室 |
| 出席委員 | 太田史彦、塩島弘之、内山 葵、宗川尚美、太田雄介、太田和也 藤生 誠、高橋いづみ、北沢芳洋、田中 守、富山正明、小林英雄、 小川由美子、長島律子、高橋英子 |
| 事務局 | 教育長、生涯学習スポーツ課長、生涯学習スポーツ課長補佐兼生涯学習スポーツ係長、公民館主事 |
| 傍聴者 | 1 名 |

1 開会

2 委嘱の交付

3 教育長あいさつ

図書館の施設整備につきましては、財政の問題もあり先送りされてきましたが、今年度教育委員会の諮問機関として、充実した施設として整備するために、白馬村図書館施設検討委員会を立ちあげ、調査検討を行うことになりました。この委員会では施設の機能や内容、空間のあり方などについて、村民の希望やニーズを把握し、村民の文化的な活動・交流の場として知的な活気とにぎわいにあふれる図書館の建設に向けて調査検討を行っていただき、図書館の整備基本方針や施設計画などを策定の上、教育委員会に提出をお願いします。図書館が持つ可能性を最大限に発揮し、他の諸機能と連携した魅力ある施設整備に向け、委員の皆様のお力添えをお願いしたい。

4 自己紹介

5 委員長・副委員長選出

委員の互選により、委員長に富山正明氏、副委員長に小林英雄氏が選出される。

6 協議事項

- ・図書館施設の建設について

◆はじめに（事務局）

図書館施設検討委員会は、当初予定で年間 4 回程度の会議を行う予定で進めているが、予定よりも会議回数を増やす方向で検討している。平成 28 年 4 月発行の白馬村図書館基本計画に従い、白馬村施設検討委員会で新たに上がる意見を主に活用していく方向である。

◆図書館施設検討委員会のあり方について（事務局）

図書館施設検討委員会で、図書館の場所やどのような施設にするのかを平成 31 年度までに決めていく。面積や用地交渉なども 31 年までに進めていく。具体的な施設内容が決まった後、建設に移る際に新たに建設検討委員会などを立ち上げる予定はなく、図書館施設検討委員会の一本で進めていく。

- ・平成 29 年度 図書館の場所、施設内容、規模などの検討
- ・平成 30 年度 施設内容、規模の検討、教育委員会へ検討結果報告
- ・平成 31 年度 基本設計及び、設計調査
- ・平成 32 年度 実施設計
- ・平成 33 年度 建設工事の予定である。

◆どのような図書館を望むか

委員 図書館だけでしかできないことが大切。白馬中や白馬高の生徒が勉強できる学習スペースなど、自主的に足を運んでもらえる環境を作りたい。

委員 図書館をカジュアルな場所として建設していきたい。失敗例を参考すると同時に、事例調査を行い公平に客観的に見ていく必要がある。子供が図書館に行くきっかけは大人の付添がほとんどであることから、村民との距離が近い図書館作りが大切。大人が興味を持ち、地域で楽しめる図書館を作る必要がある。

委員 普通の図書館ではなく、白馬らしい明確なモットーを持った図書館をつくる事が大切。中高生が活躍できる等の方向性を示していきたい。

委員 より多くの方に新図書館に求めるものを聞く必要がある。白馬村では村民の 10%程度しか図書館を利用していないことから、少なくとも 50%くらいの人が利用できる場所を目指す必要がある。

委員長 (充て職に対して) 異動するのは仕方がないので、その役職としての意見を集約する必要がある。

委員 図書館建設について詳しい人からアドバイスをもらいたい。実績がある小布施図書館の元館長の花井さんのような方。村民を巻き込んだ図書館づくりを進めるのがよい。

委員 北小の児童が 1 番使用しており、自由に行ける場が必要とされる。

委員 色々な目的で行ける、堅苦しくない場所が良い。

委員 蔵書を学校と連携して広がりをもてれば良い。

委員 白馬に来る観光客が図書館に来ると良い。

委員 図書館を必要としている人の意見をどの程度集約していくか。誰を目的としているのか、複合施設として作るなら、休憩スペース程度などか等、まずは図書館として求めるものをまとめる必要がある。

◆次回に向けて

図書館施設検討委員会が始まっていることを広く宣伝していき、村民の方が気軽に意見を出せる雰囲気作りが大切。行政や委員だけでなく村民みんなで作出す図書館として進める必要がある。

今回は、新図書館に求める大きな枠、イメージについて意見を出していきたい。